

海を越えた人類の移住と舟 Humans and Boats

Maritime Life in Asia and Oceania

小野林太郎
(国立民族学博物館)



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



大学・外国利用機関法人
人間文化研究機構



舟と人類
Humans and Boats
Maritime Life in Asia and Oceania

主な研究テーマ①

島や沿岸域での発掘調査から、人類の海洋適応や海洋文明の謎にせまる

Science Magazine

Science Home

Home > Science Magazine

Article Views

- Abstract
- Full Text
- Full Text (PDF)
- Figures Only
- Supporting Online Material

Article Tools

モノからみる
海域アジアとオセアニア
海辺の暮らしと精神文化
小野林太郎 編

人類史マップ
サビエンス誕生・危機・拡散の全記録
小野林太郎 著

海
の
人
類
史
東南アジア・
オセアニア
海域の考古学
小野林太郎 著
磯山 晃

主な研究テーマ②

■海に沈んだ船や遺跡の謎にせまる

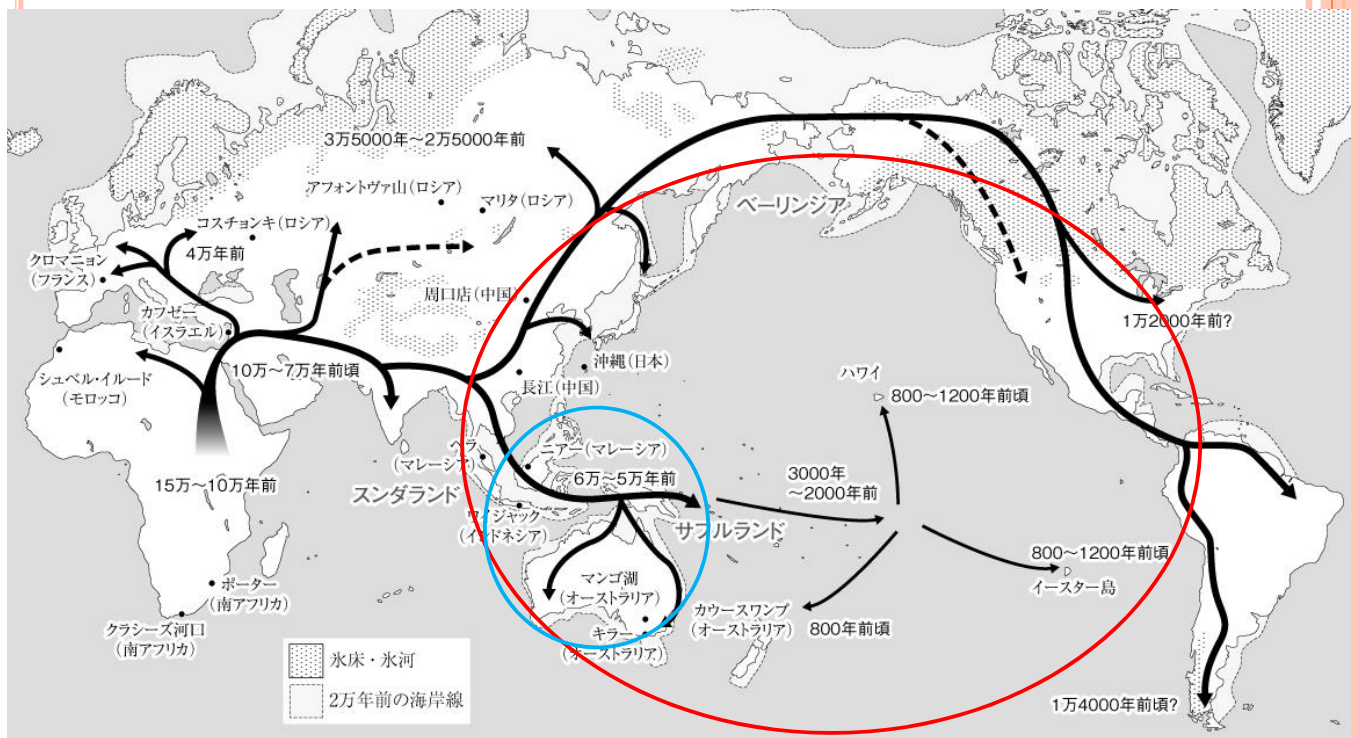
→ダイビングによる水中での調査から、「船や海と人の歴史」を研究する(水中・海事考古学)



沖縄県石垣島の屋良部沖海底遺跡



ホモ・サピエンスによる移住と拡散



サピエンスによる移住と舟の発達

●舟や船の出現とその本格的な利用は、私たちホモ・サピエンスの出現以降？

⇒もっとも原始的な舟には筏や皮舟などが推測されており、加工技術の発達とともに丸木舟や様々なカヌー・舟が出現した。



筏（オーストラリア）



あし舟



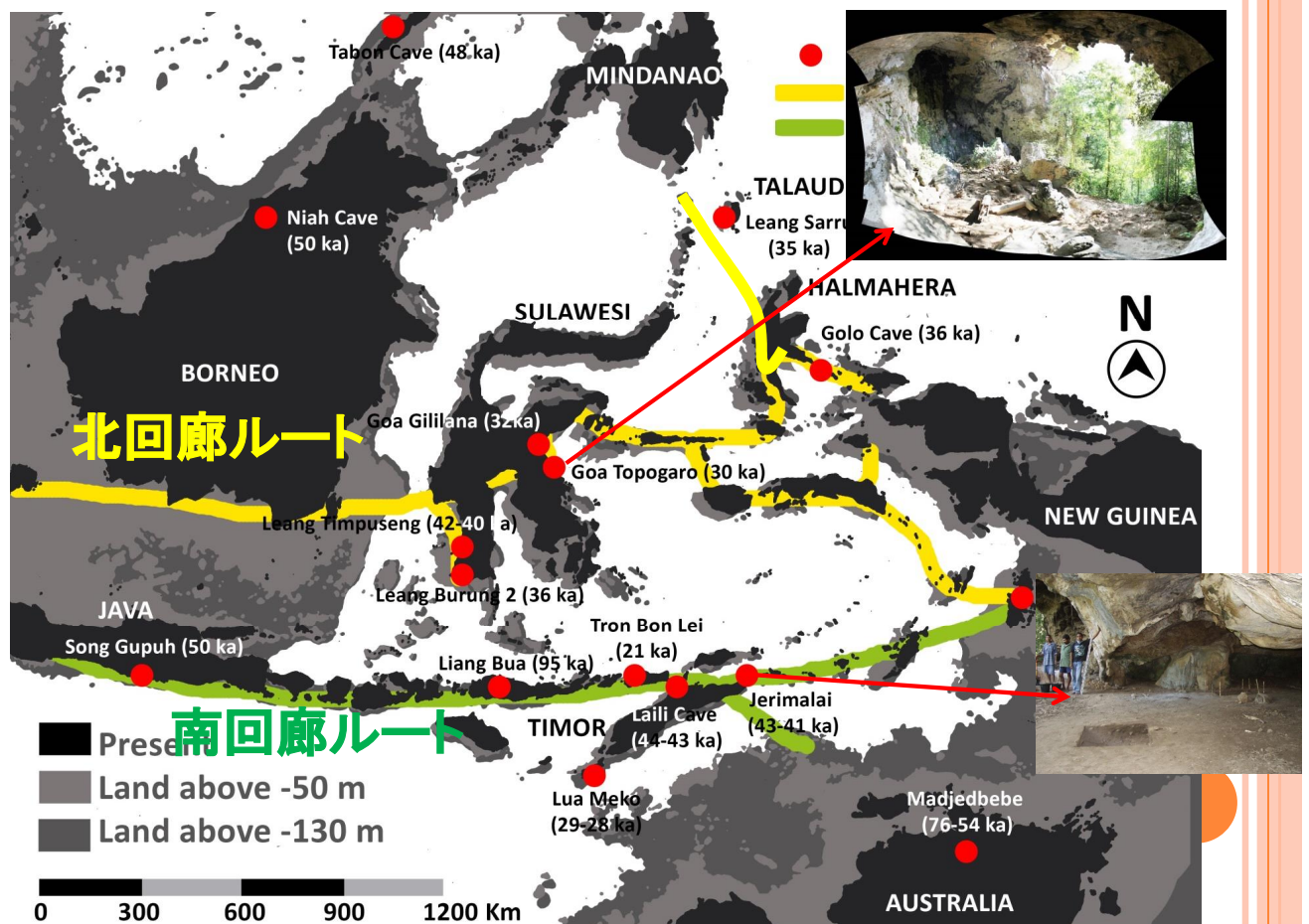
丸木舟（オーストラリア）



船形埴輪

大阪市立自然史博物館

ウォーレシアと主な更新世サピエンス遺跡



中スラウェシ・トポガロ洞窟遺跡での発掘

●2024年までの発掘で19 層におよぶ約5mの堆積層を確認

➤ 大量の汽水産・沿岸産貝類、小型哺乳類、中型哺乳類、爬虫



新石器時代とオーストロネシア語族の拡散



ラピタ人の拡散と分布域

・ラピタ人とその特徴

- ①メラネシアのビスマルク諸島以東で3300年前後に出現
- ②特徴的な鋸歯印文を有する土器(ラピタ土器)
- ③短期間(約500年)にサモアにまで拡散(4000km)



スラウェシ島で新たに発見された鋸歯印文土器



ドリーネの上部と壁面



ドリーネ内にある岩陰の一つ



トボガロ遺跡出土の土器群



ヴァヌアツのラピタ土器群

新たな海洋適応と航海術の発達

①ラピタの出現やマリアナ諸島への移住(3500年前～)

⇒2300～500km以上の渡海能力

②ポリネシア集団によるハワイ、イースター島、ニュージーランドへの移住(8-12世紀頃～)

⇒4000～5000kmの渡海能力



ミクロネシアのアウトリガーカヌー
(門田修氏提供)



特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」



本特別展の図録&リーフレット



1階展示の構成と展示・演示風景

- 1 古代から受け継がれてきた舟たち
- 2 日本における古代の舟
- 3 北方圏の舟
- 4 南洋圏の舟
- 5 日本の舟とその世界



2階展示の構成と展示・演示風景

- 6 舟を造る・飾る
- 7 模型にみる舟の多様な世界
- 8 漕ぐ・踊る—多様な櫂たち
- 9 漁撈と舟—漁具にみる機能と造形美
- 10 交易と舟—島じまをまわる宝たち
- 11 あの世とこの世をつなぐ舟



特別展の概要について

タイトル

特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」

Special Exhibition

“Humans and Boats- Maritime Life in Asia and Oceania”

場所：国立民族学博物館 特別展示室

開催期間：令和7年9月4日（木）～2025年12月9日（火）

主催：国立民族学博物館

協賛：人間文化研究機構グローバル地域研究プログラム、
海域アジア・オセアニア研究プロジェクト(MAPS)

後援：ミクロネシア連邦大使館、日本オセアニア学会、
東南アジア学会、東南アジア考古学会